

【 第20回熊本大学定例学長記者懇談会 】

日 時：令和5年2月1日（水） 14：00～15：00（予定）

場 所：本部棟1階 大会議室

本学出席者：熊本大学長 小川 久雄（カワ ヒサ）

司 会：理事（広報・ブランディング・行政連携担当） 宮尾 千加子（ミヤ チカコ）

内 容：

1. 第15回「熊本大学東光原文学賞」について（資料1）
2. 「2022年度グッドデザイン賞グッドデザイン・ベスト100」及び「土木学会デザイン賞優秀賞」受賞について（資料2） 大学院先端科学研究部 准教授 田中 尚人
3. その他

※新型コロナウイルス感染症の感染対策を徹底した上で開催いたします。

令和5年2月1日開催

熊本大学定例学長記者懇談会 資料 1

第15回

熊本大学 東光原文学賞

主催：熊本大学附属図書館

75th

anniversary

Since 2008

作

品

募

集

東光原文学賞

応募対象

熊本大学学生

(院生・留学生を含む)

ジャンル

小説(日本語)

応募詳細

1人1篇とする

未発表作に限る

字数

12,000

524,000

字程度

学長賞

1 篇

正賞 表彰状

副賞 図書カード

15万円

附属図書館長賞

3 篇

正賞 表彰状

副賞 図書カード

5万円

応募締切

令和4年

11 / 8

(火)

必着



詳しくは図書館HPにて

<https://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/>

崎津・今富地区の文化的景観整備が
「2022年度グッドデザイン賞グッドデザイン・ベスト100」
及び「土木学会デザイン賞優秀賞」を受賞
【報告】

熊本大学 大学院先端科学研究部 准教授 田中尚人



JP EN 中(箇 / 覧) お問い合わせ

グッドデザイン賞とは [受賞対象一覧](#) [応募ガイド](#) [プロモーション](#) [年度別アーカイブ](#) [ログイン](#)

2022 年度を選択 ▾ 特別賞を選択 ▾ [詳細検索を表示](#)



GOOD DESIGN BEST 100 | [グッドデザイン・ベスト100](#)

[前のページへ戻る](#) [一覧へ戻る](#)



審査委員の評価

国の重要文化的景観や世界遺産に登録されている漁村と山村の集落景観を守り育むため、住民、自治体、有識者、設計者等が集い12年の歳月をかけて積み重ねてきた議論の延長線上に、この風景が維持されている。高齢化が進む集落にあって、地域の産業と観光のバランスを見据えた将来構想の立案や、沿岸部の高潮被害や山間部の土砂災害リスクから暮らしを守るための公共事業と景観デザインの見極めなど、委員会で議論され実践された成果の中にこの国が取り組むべき未来がある。日本が失ってはならない人と自然の営みに寄り添い続ける有識者の凄みに、若輩者はただただ頭を垂れるのみである。

担当審査委員 | 伊藤 香織 安東 陽子 五十嵐 太郎 平賀 達也 山崎 健太郎

主宰者挨拶より

今年度の応募件数は5,715点に達しました。記録的な応募数となった昨年度とほぼ同じ水準で、デザインへの社会の期待と、日々デザインに携わる皆様の熱い思いが変わらないことが示されました。

グッドデザイン賞は、社会を良い方向に導く力を持つデザインを発見し、社会に広げるとともに、新たなデザインの創出につなげていくことを目指しています。今年度のテーマ「交意と交響」の下、社会の課題や人々の切実な想いに寄り添う意思を持ち、人々に「あってよかった」との共感を呼び起こすデザインを数多く見出すことができたと感じています。

惜しくも受賞に至らなかった皆様に対しましても、デザインの価値を理解されて全力で取り組まれたことに対して、心より敬意を表したいと思います。
<https://www.g-mark.org/activity/2022/message.html>



伊藤 香織

都市研究者

ユニット16：建築（公共施設）・土木・景観

16-01 公共の建築・空間 | 16-02 公共建築のインテリア | 16-03 ランドスケープ・土木・構造物 | 16-04 街区・地域開発 | 16-05 産業・商業・公共建築のための構法・工法

今年度の審査結果を見ると、作品のバリエーションが豊かであったことに気付かされる。ベスト100に入った作品だけでも、図書館、美術館、児童遊戯施設、景観づくり、河川整備、公園整備運営と建築・土木・景観を網羅し、新築、リノベーション、整備、運営などに渡る。現れは多様なが、全体の傾向を2点挙げたい。

ひとつは、地域課題や社会課題への真摯でクリエイティブな取り組み方である。特に、インクルーシブ、GX（グリーン・トランスフォーメーション）といったテーマは、ともしればお題目になったり、デザインとは切り分けた対応となったり、そのために取り組みがあるだけで評価されたりしがちであるが、今年度はデザインに昇華され統合されているものが多かったように感じられる。また、官民の境なく、それぞれの立場から地域課題・社会課題に取り組むという姿勢が確実に進んでいる。

もうひとつは、時間軸があることである。地域や利用者に接する期間がより長くなり柔軟にデザインが続く様子は、設計段階での住民参加ワークショップのような一般化してきたプロセスのさらに先を行く。10年以上にわたって地域と対話しながら地域に馴染んだ景観整備を積み上げていくとともに、住民意識の変化ももたらした崎津・今富の文化的景観整備(22G161239)や、設計者や施工者も入った特別目的会社が開業後も運営にも関わって場を育て続けようとするシェルターインクルーシブプレースコバル(22G161188)などはその好例だろう。

これらは必ずしも目新しいものではないが、今年度の作品群ではそうした傾向が随分定着してきたように感じられた。一方で、公共の空間整備に関わる制度は容易に変われないところもあり、そこに切り込む作品も見られた。公共発注システムの前提に挑戦した守口市立図書館(22G161185)や、新たな公園運営の制度の本来の意味を問直すような大連公園 SUEプロジェクト(22G161241)などは、制度転換に向けた新たなモデルにもなり得るだろう。

当たり前のことだが、ユニット16の作品群では、取り組む課題にもデザインにも地域らしさが色濃く反映されている。それぞれ「遡る」ことのおもしろさや可能性をあらためて感じるの、急速に情報が移動に取って代わられた今だからだろうか。

→ この審査ユニットの受賞対象

選考結果について

選考の手順

選考結果

選考結果

2022

最優秀賞

優秀賞

奨励賞

崎津・今富の文化的景観整備

Cultural landscape Design of Sakitsu and Imatomi



講評

熊本にありながら文化的には長崎に近い漁村文化を有する天草の崎津。潜伏キリシタンの里としての悲劇の歴史、一方南蛮文化など海外への玄関としての歴史、そして漁村としての歴史が重層的に存在するまち。これら全国的にも特殊な文化的景観を後世に伝える、観光資源として活用するためのデザインである。

崎津教会と言うランドマークを中心に、まちの歴史を伝える資料館、まちの文化的景観を伝える案内サイン、そして地域のボランティアの活躍により、歩いて回れる設計となっている。平地がなく道路が狭いという漁村の欠点を補うためにまちの入り口に道の駅を設置し、徒歩による観光を促している。これらまちの文化的景観を保全するために、天草市文化的景観整備管理委員会を設置し10年以上にわたり、砂防や斜面防災など地域のさまざまな土木デザインにも細かな工夫がされている。

日本の各地に魅力的なまちがあるが、掘り起こさないとその魅力は伝わりにくい。地域力とデザインによりその魅力を引き出している。(中村)

小ぢんまりした湾を囲む崎津の漁村集落と、そこから山へと連なる今富の集落、そのどこからも町に聳え立つ教会が目に入る景観は、世界でも類を見ない美しいものだ。

この地域の世界遺産登録が視野に入った時点で、町の景観整備やオーバーツーリズムへの懸念を見据えて天草市文化的景観整備管理委員会が設立されたのは、2010年のことだと言う。この町に訪れて感じる美しさや心地よさは、10年以上にわたるこの委員会の地道な活動の成果だろう。

道の駅の配置は、町への不用意な車の乗り入れを穏やかに回避する周到さがあり、展望台や広場、公衆トイレなど、公共空間の整備は丁寧になされて町に溶け込んでいる。民家を改修して生まれた資料館や休憩所は、町の歴史や情報を、実空間を介して生々しく伝えてくれている。

この成功は、この委員会が地元住民も巻き込んで継続してきた仕組みに負うところが大きいのだろう。地元の方々が当事者となって景観形成に努めてきたことは、小さな商店の店主や、町の随所で出会うボランティアの生き生きとした姿からも感じ取ることができる。

今後この町が、単なる観光地に安住するのではなく、生業との新しい共存の姿を見出していってほしいと願う。(千葉)

文化的景観 とは

「文化的景観とは、以下の**文化財**を指します。地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された**景観地**で我が国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできない**もの**（文化財保護法第二条第1項第五号より）」

その要件としては、**①歴史**、**②自然環境**、**③生活・生業**、が挙げられ、これらを保持する**地域の景観を文化財とする**ものである。



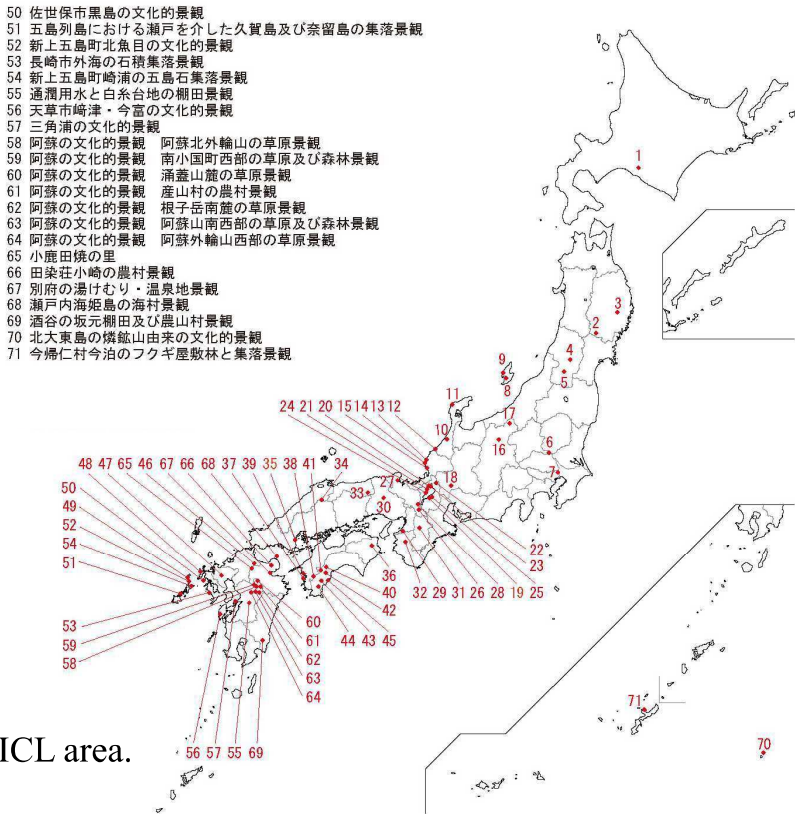
【第1号】近江八幡の水郷（滋賀県近江八幡市）



【第2号】一関本寺の農村景観（岩手県一関市）

国が選定する重要文化的景観（令和4年3月15日現在）

- 1 アイヌの伝統と近代開拓による沙流川流域の文化的景観
- 2 一関本寺の農村景観
- 3 遠野 荒川高原牧場 土瀬山口集落
- 4 豊上川の流通・往来及び左沢町場の景観
- 5 豊上川上流域における長井の町場景観
- 6 利根川・渡良瀬川合流域の水場景観
- 7 葛飾柴又の文化的景観
- 8 佐渡西川の砂金山由来の農山村景観
- 9 佐渡相川の鉱山及び鉱山町の文化的景観
- 10 大沢・上大沢の開墾集落景観
- 11 大沢・上大沢の開墾集落景観
- 12 加賀海岸地域の海岸砂防林及び集落の文化的景観
- 13 越前海岸の水仙畑 下坪の文化的景観
- 14 越前海岸の水仙畑 上坪の文化的景観
- 15 越前海岸の水仙畑 礮の文化的景観
- 16 礮捨の棚田
- 17 小菅の里及び小菅山の文化的景観
- 18 長良川中流域における岐阜の文化的景観
- 19 近江八幡の水郷
- 20 高島市海津・西浜・知内の水辺景観
- 21 高島市針江・鶴岡の水辺景観
- 22 東豆野の山村景観
- 23 菅浦の湖岸集落景観
- 24 大溝の水辺景観
- 25 伊庭内湖の農村景観
- 26 宇治の文化的景観
- 27 宮津天橋立の文化的景観
- 28 京都岡崎の文化的景観
- 29 日根荘大木の農村景観
- 30 生野鉱山及び鉱山町の文化的景観
- 31 奥飛鳥の文化的景観
- 32 関島及び三田・清水の農山村景観
- 33 智頭のエッセンス
- 34 奥出雲たたら製鉄及び棚田の文化的景観
- 35 錦川下流域における錦帯橋と岩国城下町の文化的景観
- 36 徳原の棚田及び農村景観
- 37 遊子水筒浦の段畑
- 38 奥内の棚田及び農山村景観
- 39 宇和瀬河津の段畑と農山村景観
- 40 四方十川流域の文化的景観 源流域の山村
- 41 四方十川流域の文化的景観 上流域の山村と棚田
- 42 四方十川流域の文化的景観 上流域の農山村と流通・往来
- 43 四方十川流域の文化的景観 中流域の農山村と流通・往来
- 44 四方十川流域の文化的景観 下流域の生業と流通・往来
- 45 久礼の港と漁師町の景観
- 46 求菩提の農村景観
- 47 蕨野の棚田
- 48 平戸島の文化的景観
- 49 小値賀諸島の文化的景観
- 50 佐世保市黒島の文化的景観
- 51 五島市久賀島の文化的景観
- 52 新上五島町北魚目の文化的景観
- 53 長崎市外海の石積集落景観
- 54 新上五島町崎浦の五島石集落景観
- 55 通潤用水と白糸台地の棚田景観
- 56 天草市崎津・今富の文化的景観
- 57 三角浦の文化的景観
- 58 阿蘇の文化的景観 阿蘇北外輪山の草原景観
- 59 阿蘇の文化的景観 南小国町西部の草原及び森林景観
- 60 阿蘇の文化的景観 涌蓋山麓の草原景観
- 61 阿蘇の文化的景観 産山村の農村景観
- 62 阿蘇の文化的景観 根子岳南麓の草原景観
- 63 阿蘇の文化的景観 阿蘇山南西部の草原及び森林景観
- 64 阿蘇の文化的景観 阿蘇外輪山西部の草原景観
- 65 小鹿田焼の里
- 66 田染荘小崎の農村景観
- 67 別府の湯けむり・温泉地景観
- 68 瀬戸内海姫島海村景観
- 69 酒谷の坂元棚田及び農山村景観
- 70 北大東島の燐鉱山由来の文化的景観
- 71 今帰仁村今泊のフクギ屋敷林と集落景観



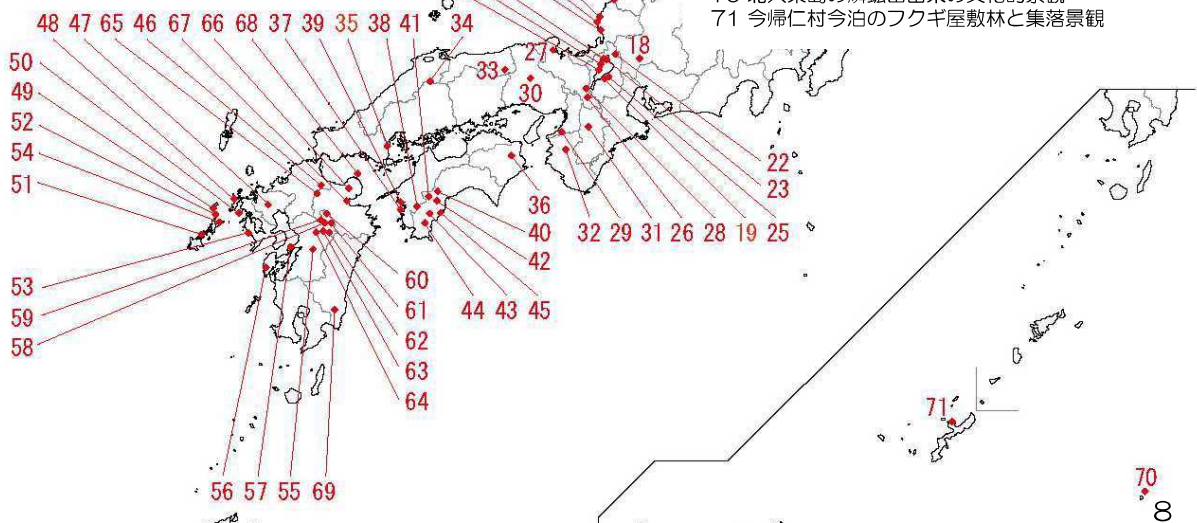
71 sights are selected as NICL area.
(15th March, 2022)

<http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/shokai/keikan/index.html>

重要文化的景観選定箇所（九州・沖縄）26件

令和4年3月15日現在
全国に、71件の国選定
重要文化的景観がある。

- | | |
|--------------------|-----------------------------|
| 46 求菩提の農村景観 | 58 阿蘇の文化的景観 阿蘇北外輪山の草原景観 |
| 47 蕨野の棚田 | 59 阿蘇の文化的景観 南小国町西部の草原及び森林景観 |
| 48 平戸島の文化的景観 | 60 阿蘇の文化的景観 涌蓋山麓の草原景観 |
| 49 小値賀諸島の文化的景観 | 61 阿蘇の文化的景観 産山村の農村景観 |
| 50 佐世保市黒島の文化的景観 | 62 阿蘇の文化的景観 根子岳南麓の草原景観 |
| 51 五島市久賀島の文化的景観 | 63 阿蘇の文化的景観 阿蘇山南西部の草原及び森林景観 |
| 52 新上五島町北魚目の文化的景観 | 64 阿蘇の文化的景観 阿蘇外輪山西部の草原景観 |
| 53 長崎市外海の石積集落景観 | 65 小鹿田焼の里 |
| 54 新上五島町崎浦の五島石集落景観 | 66 田染荘小崎の農村景観 |
| 55 通潤用水と白糸台地の棚田景観 | 67 別府の湯けむり・温泉地景観 |
| 56 天草市崎津・今富の文化的景観 | 68 瀬戸内海姫島海村景観 |
| 57 三角浦の文化的景観 | 69 酒谷の坂元棚田及び農山村景観 |
| | 70 北大東島の燐鉱山由来の文化的景観 |
| | 71 今帰仁村今泊のフクギ屋敷林と集落景観 |



<http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/shokai/keikan/index.html>

崎津・今富の文化的景観整備



背景 国の重要文化的景観への選定 + 世界遺産への登録

Point 1 デザインの幅の広さ <全ての公共工事にデザインの視点を行き渡らせる>

- 景観デザインの視点を行き渡らせる
 - ・10年以上、ほぼ全ての公共工事を対象に
- 全体としての風景の価値を高める
 - ・派手さは無いが風景に調和した素朴なデザイン
 - ・少しずつ行き渡らせることで全体としての風景の価値を高める

Point 2 10年以上継続中 <住民・行政と連携しながら事業を進める>

- 地域との信頼関係の構築
 - ・文化的景観や世界遺産への理解を促す長期的活動
- 住民と一緒に考える
 - ・地域の価値に気づき、守り育てていく意識の高まり

Point 3 仕組みのデザイン <分野横断的に景観のデザインとマネジメントを実現できる体制>

- 協働の場づくり
 - ・住民、行政、専門家、若手からベテランまで、多様なステークホルダーと共に議論
- 多様な分野を横断した議論
 - ・都市計画行政、景観行政、文化財行政、縦割りを排除した総合行政



住民とのワークショップ



模型を囲んだ検討



委員会の現地確認



地元の方々によるガイド



地元河浦高校生によるガイド



地元と学生協働の「カケ」づくり



閉校した富津小学校の総合学習



住民手作りの竹プランター



今富地区のフットバス倶楽部



地域の子どものワークショップ

地元関係者の声

本事業をきっかけに、地元の行政職員、地元代表の方や学生などの多くの人々とともに多様な活動を展開してきました。



行政・文化財担当 平田豊弘さん

住む人が誇りを持てるような公共事業の大切さと、「景観からの島づくり」に踏み出す喜びを感じました。



崎津地区住民 中村美生さん

今富のフットバスやおもてなしの竹プランターづくりに長年関り、「富津ラボのお父さん」として学生たちも慕っています。



河浦高校最後の生徒会長 宮崎愛子さん

河浦高校生が始めたボランティアガイドは、閉校した後も河浦中学校の生徒たちに受け継がれています。

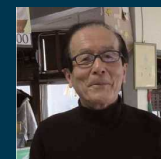


砂防ダム建設地の高岡区長（当時）

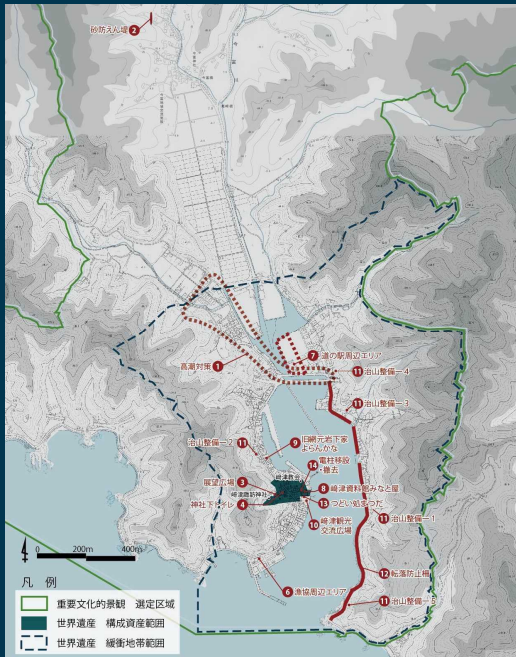
防災、文化財保全など様々な課題に対し、とにかくいいものをつくり、今後も住民の意見を第一にしてほしいと願っています。

地元委員のみなさん

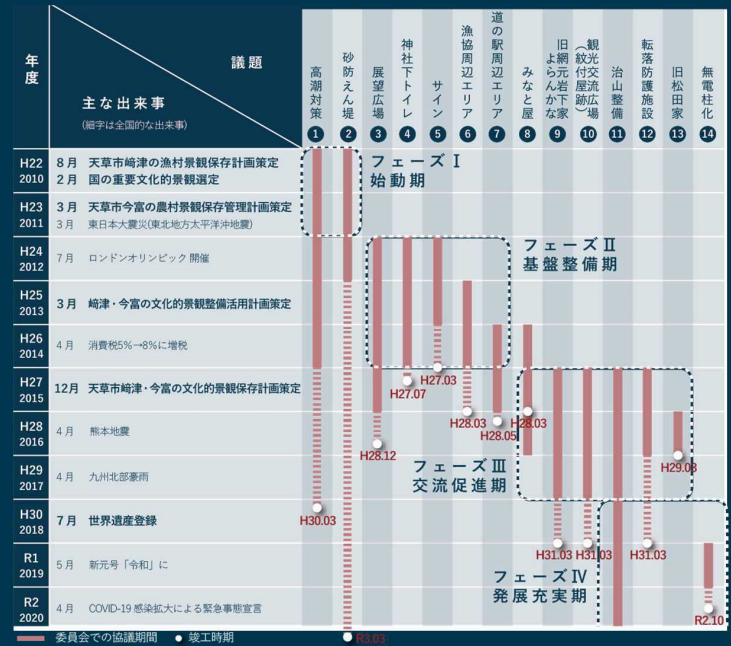
委員会には地元代表の方にも入ってもらい、行政や専門家とともに10年以上にわたって検討を重ねてきました。



対象施設の位置図



検討・整備時期



● 個々の公共工事の概要





●個々の公共工事の概要

①高潮対策

(ブロック積み護岸：530m、樋門：3箇所、橋：2箇所等)
景観への影響を最小限に抑えることができるよう、機能を満たしながら事業規模や施設規模を縮小した。

②砂防えん堤

(砂防堰堤3基を設計、内1基が竣工)
施工や維持管理に必要な管理道路を上流部に位置する文化財へのアクセスルートとして活用し、文化的景観の価値理解促進につなげた。

③展望広場

(約170㎡)
高低差のあるベンチや透過性のある柵によって眺望を引き立て、神社と教会の共存という独特の文化を風景の中で感じやすい場とした。

④神社下トイレ

(建築面積51.2㎡)
本事業で最初の公共建築であったため、その後の規範となるよう、崎津の建物の特徴を古写真から抽出し、集落の景観に溶け込む建築とした。

⑤サイン

(地区内に30基程度設置)
崎津教会周辺に限られていた来訪者の流れを域内全体に広げるために、地域資源の洗い出しや回遊動線の設定段階からデザインを実施した。

⑥漁協周辺エリア

(観光用駐車場：約700㎡)
海に近く夕焼けの景色が有名な眺望スポットであることから、海方向に向けた視線の抜けや開放感を重視した駐車場を設置した。

⑦道の駅周辺エリア

(道の駅崎津：約5440㎡・建築面積486.91㎡)
玄関口にあたる場所に駐車場やガイダンスを配置し、集落内への車の流入を減らし徒歩での回遊を促した。また、暮らしや折りの場を守るため、観光マナーの情報提供もを行っている。

⑧崎津資料館みなとや

(木造2階建て99.66㎡)
元々建てられていた建物の履歴を残しながら世界遺産センターのサテライト施設として整備した。2階からは、崎津教会を望むことができる。

⑨旧網元岩下家よらんかな

(木造2階建て174.74㎡)
元々漁師の網元の住宅であったことから、漁労の営みを感じさせる空間構成をテーマに来訪者の受け入れ施設としての整備を行った。

⑩崎津観光交流広場

(約700㎡)
かつては、海から上がれる玄関のある特徴的な旅館が建っていた。その履歴を残しつつ交流や観光の場として利用できる海に開いた広場とした。

⑪治山整備

(モルタル吹付5箇所)
予算や期間に限られる中、少しでも景観に調和したモルタル吹付斜面となるよう境界部を地形に合わせて曲線にし、モルタルの色調整を行った。

⑫転落防止柵

(ガードパイプ、ガードロープ)
崎津だけでなく、天草全体の海岸道路のあり方を検討したうえで、海岸の見え方に配慮した色彩の転落防止柵を設置した。

⑬つどい処まつだ

(木造平屋95㎡)
元々建てられていた建物の部材を一部活用し、景観との調和に配慮しながら隣接する⑩観光交流広場と連続的につながる資料館を整備した。

⑭電柱の移設・撤去

(崎津教会参道周辺)
崎津教会周辺の電柱の移設・撤去を行い、境界を正面に見据える道路上から電柱や電線に妨げられない風景づくりを行った。



2022.11.1 (火) グッドデザイン賞授賞式



2022.12.25 (日) 崎津・今富地区の文化的景観整備「グッドデザイン賞グッドデザイン・ベスト100」・
「土木学会デザイン賞優秀賞」祝賀会